

キク科 ブタクサ属

ブタクサ (豚草)

Ambrosia artemisiifolia L.

自生環境

道ばた、畑地、荒れ地 など

原産地

北アメリカ

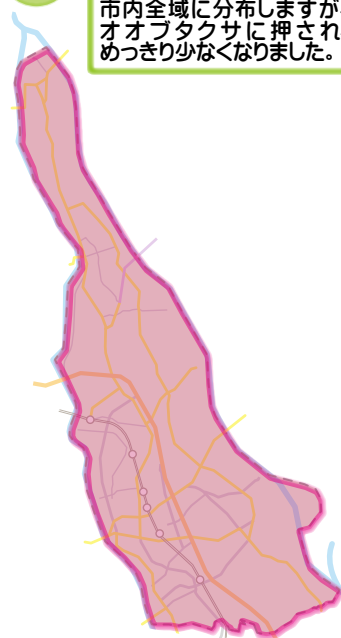
予想される被害



空中に大量の花粉を撒き散らすため、秋の花粉症の主要な原因植物となっています。ただ近年は同じ仲間のオオブタクサのほうが優勢で、ブタクサの影響は小さくなっています。

市内の分布状況

市内全域に分布しますが、オオブタクサに押され、めっきり少なくなりました。



特徴

- ☆ 温帯を中心に世界の広範囲に広がる1年草で、国内でも昭和時代に一気に全国へと広がりました。ただ後から入ってきた同じ仲間のオオブタクサに押されたのか、すっかり数を減らしおとなしくなりました。乾燥した荒れ地や畑のまわりに見られます。
- ☆ 夏から秋にかけ、茎の先に長い雄花の穂をつけます。ここから大量の花粉を空中にまき散らすため、秋の花粉症の主要な原因植物のひとつとなっています。
- ☆ 名前のブタクサは「hogweed」を直訳したものです。ただhogweedはブタクサに対する英名ではなく、硬い毛におおわれた植物を総称したものです。ハナウド（セリ科）などもhogweedと呼ばれます。ブタクサの英名はannual ragweed。annualは1年草、ragはボロボロという意味で、細かく切れ込む葉のかたちからきています。

花粉を出さないブタクサ

ブタクサは風媒花なので、雄花の穂からは大量の花粉が撒き散らされます。そのため秋の花粉症の主要な原因植物として嫌われています。ところがごく稀に、雄花になる部分が雌花に置き換わってしまい、雄花がまったくない株が出てきます。これが「メブタクサ」と呼ばれるものです。ただ性質としては固定しておらず、同じ株の子孫がメブタクサになるとは限らないようです。

雄花

数個の雄花が1つの花のように集まる

穂の一番下につく

雌花

雄花の穂は揺ると大量の花粉が出てくる

ほうよう苞葉

果実は苞葉に包まれるようにして育つ

葉の切れ込みがとても細かい

雄花の部分が雌花に置き換わっている



メブタクサ

雌花しかつかないタイプ

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

